

CHUSUGI ✕ BUNGA KUBU

スチューデント・ライブラリアン
活動報告

vol.7 - 2021年度



2021 年度

スチューデント・ライブラリアン活動報告

目 次

| | | |
|--------------------------------|---|---|
| ・ スチューデント・ライブラリアン 7 期生活動記録 | … | 2 |
| ・ スチューデント・ライブラリアン活動報告 | | |
| 文学部 人文社会学科 英語文学文化専攻 3 年 杉本 麻郁子 | … | 3 |
| 文学部 人文社会学科 日本史学専攻 3 年 大場 裕子 | … | 5 |
| ・ リエゾン文庫書目一覧 | … | 9 |





スチューデント・ライブラリアン7期生 活動記録

2021 年度

応募期間 4月13日（火）～5月14日（金）

選考方法 書類審査・面談

面談日程 5月27日（木）

応募者数3名 採用者数3名

第1回派遣 6月 25日（金）＜オンライン＞

第2回派遣 8月 15日（日）＜オンライン＞

第3回派遣 8月 31日（火）＜オンライン＞

第4回派遣 9月 25日（土）＜杉並高校＞

第5回派遣 リアル班：10月 5日（火）＜杉並高校＞

動画班：10月9日（土）＜杉並高校＞

第6回派遣 リアル班：11月 25日（水）＜杉並高校＞

動画班：11月22日（月）＜杉並高校＞

第7回派遣 リアル班：3月 8日（火）＜杉並高校＞

活動報告会 3月26日（土）

2021年度のスチューデント・ライブラリアン活動は、大学生2名、高校生10名と先生方で行われました。新型コロナウイルス感染症対策のため、GoogleMeetやClassroomを利用したオンラインでの活動が主となりました。活動は2班に分かれて行われ、この報告書では動画作成を担当した動画班の私と高校生4名の活動について記録します。

1. 目的：図書館の利用者を増やすこと

初回のブレインストーミングでは、図書の内容を深掘りするようなさまざまな案も出ましたが、「そもそも日常的に図書館へ足を運ぶ人が少ない」という高校生のみなさんの体感に基づく意見から、まずは利用者を増やすことに重点を置きました。



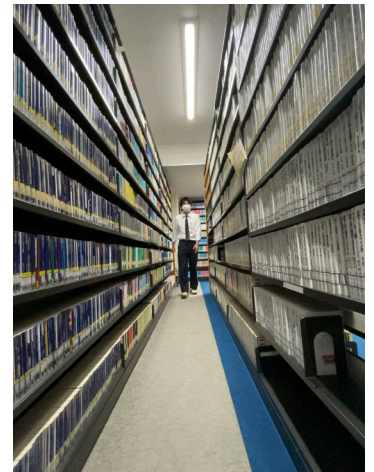
2. 動画制作に至る経緯

「図書館への道順が難しく、行き方がわからない生徒がいる」という意見から、図書館への行き方を説明するものを作成することになりました。その際、言葉で説明するよりも動画で撮る方がわかりやすいことや、当時授業や課題もオンラインで配信されていたことから、動画を作ることに決めました。

その後、足を運びやすくするため、加えて来るきっかけとなる興味を見つけてもらうため、図書館内にあるものと、図書の配置の紹介も動画に撮ることになりました。

3. 撮影

図書館内の撮影は2回に渡って行いました。1度目は大学生1名と高校生1名で撮る角度や動画の長さ等を検討しつつ、70の動画や写真を撮影しました。2度目には、前回の撮影を元に高校生4名がスマートフォンを使って撮影しました。実際に撮影したものを一部載せます。



4. 編集

撮影した動画や写真は、高校生の4名がiMovieを利用して編集しました。この際、動画が見られやすくするため、長さが1分程度に収まるよう工夫し、計画的7本の動画になりました。また、図書館の雰囲気合うBGMを選ぶ際に著作権フリーの曲を探す点にも注意しました。

5. アップロード・公開

この工程は主に私が担当しました。動画は YouTube 上で「限定公開」(URL を知っている人のみ閲覧可)の状態で開催しました。中杉図書館の Google アカウントを新たに作成し、高校生のみなさんから預かった動画をアップロード、動画タイトル・概要・サムネイル等を作成しました。

動画に順番をつけ、タイトルにナンバリングをすることは高校生の方から出た意見です。その他にも、動画の最後に次の動画を表示する、再生リストにまとめるなど工夫をしました。

再生リストの URL とそれを QR コード化したものを先生方に預け、掲示やオンライン学習ツール等で周知してもらうことで、全校生徒のみなさんが見られるようになります。

YouTube 再生リスト : <https://youtube.com/playlist?list=PLADCHihNhCdavZAVrwcLWcLg3pjpvyfUZ>

6. 活動を終えて

コロナ禍で実際に集まる時間がなかなか取れない中、オンラインでのミーティングを利用したり学生の皆さんが自主的に進めてくださったりと、さまざまな工夫と協力があり、動画を完成させられました。また、活動を通して高校生の皆さんと図書館や本にまつわる会話ができたことで、私自身も人が本に触れる場に関わりたい気持ちが大きくなりました。

特に、「図書館に行くのが困難」「課題図書も渋々読む人が多い」「短い動画の方が見られやすい」といった、学生の皆さんの体感に基づく意見は、彼らが高校生の中で生活しているからこそ理解していることであり、外からは分かりにくい要素だと感じたので、こうして話を聞く機会があったこと、また、実際に経験することの重要性に気付けたことが私にとっての大きな収穫でした。

7. 引き継ぎ事項

活動についての反省点や、実行に移せなかったアイデア等を残しますので、次年度以降の活動に役立てていただければと思います。

◎反省点

- ・日程調整…全員で同じ日時に時間を確保するのは難しいので、集まれなくても情報共有、進捗報告ができる連絡手段が必要
- ・個人作業が多かったこと…動画の編集以降の作業は基本的に活動時間外の個人作業。企画段階で制作に必要な時間や作業を見通しておくこと

◎アイデア

- ・高校生が興味を持ちやすい、映画化やドラマ化した小説の紹介
- ・杉並地区との関連がある図書の紹介、本から街へ出る(ロケ地巡りのこと)
- ・読書会の開催
- ・リエゾン文庫の紹介



1. はじめに

感染症拡大により 2020 年度スチューデントライブラリアンの活動が中止されて以来、2 年ぶりに取り組みが再開された。今年度は大学生 2 名(筆者の他、杉本さん)と高校生 9 名というメンバーで活動。杉並高校の大山先生と駒ヶ嶺先生の指導も受けながら約半年間図書室活性化に取り組んできた。緊急事態宣言が長引く状況から、前例のないオンライン活動や動画作成を行うなかで感じられたメリットやデメリット、今後活かしてほしい引継ぎ事項などをこの報告書にまとめる。ぜひ次年度以降の活動に役立ててほしい。

2. 活動内容

i. 活動前

6 月から杉並高校の大山先生と大学生メンバーで顔合わせを行い、19 年度以前の活動内容の引継ぎや活動方針の決定を行った。ポスター作成や Google Classroom での呼びかけを通して夏休み前をめどに高校生メンバーを募集した。

(資料①作成者:大場裕子)

ii. 活動方針の決定

メンバーが確定してからは、オンラインで顔合わせと具体的な活動内容の決定を行った。今年度はコロナウイルスの影響で校内活動の可否が不明瞭なこともあり、オンラインでの取り組みも視野に入れ、2 グループ(動画班と紙媒体の掲示物作成や対面式活動行うリアル班)に分かれて活動することを決定した。

iii. リアル班の活動

リアル班では最初の数回を通してアイデア出しを行った。その中で以下のような案が出た。

- ・ 学生選書
- ・ Yes or No チャートの作成による推薦図書
- ・ 課題図書の収集、再配布(リサイクル利用)
- ・ 図書館内 map の作成
- ・ 開架装飾

その中で今年度は「Yes or No チャート作成による学生選書の PR」を行うことを決定した。ほかの案を採らなかった理由には以下があげられる。

- ・課題図書 の 収集、再配布(リサイクル利用)

→生徒会がすでにリサイクル図書を実施しており、共同作業も難しかった。

- ・図書館内 map の作成

- ・開架装飾

→図書室整備の制約が大きかった。

Yes or No チャート作成の目的は

- ・図書館への導線づくり
- ・課題図書以外の読書普及

の2つである。杉並高校図書室は4階にあり、C階段からしかたどり着けない構造になっており、アクセシビリティに乏しい。そこで1階からYes or Noチャートを階段に沿ってらせん状に掲示し、質問に答えていくと図書館にたどり着けるようなイメージを立てた。質問は今の心情や回答者の知的欲求を刺激するもので、回答後にそれぞれジャンル分けされた学生選書が紹介されるものとした。選書範囲は「旧課題図書」とし、読了が義務付けられている課題図書の他に、良質な物語を純粋に楽しんでもらうことを目的とした。(資料②作成者:大場裕子)

yes or noアンケート草案 質問リスト

a. 早く大人になりたい?
yes → cへ no → dへ

b. タイムマシンがあったら行きたいのは過去?未来?
過去 → dへ 未来 → ②

c. 世の中の不条理を感じる事が多い
yes → ① no → bへ

d. 今、成績を上げたい?
yes → ② no → eへ

e. 今、非現実な世界を味わいたい?
yes → ③ no → fへ

f. 自分の人生は今、下がり調子だ。
yes → ⑤ no → gへ

g. ついついメニューでおすすめ、お任せを選んでしまう。
yes → ④ no → ①

資料②

| 2021年度スチューデントライブラリアンリアル班 選書候補 | | 資料② | |
|--|--|--|---|
| ①知的好奇心、社会的探究心のある人 | ②向上心のある人 | ③幼心に戻りたい人 | ④正統派：王道を行きたい人 |
| <ul style="list-style-type: none"> ・緒方貞子『私の仕事』 ・柳美里『JR上野公園口』 ・百田尚樹『海賊と呼ばれた男(上下)』 ・井戸まさえ『無戸籍の日本人』 ・『日本ってどんな国?』 ・『君の臓腑を食べたい』 ・『邪馬台国はどこですか?』 <p>最後の質問→有名人の名言に共感できる?</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・『今昔物語集 角川書店編』 ・宮下奈都『羊と鋼の森』 ・小川洋子『博士の愛した数式』 ・司馬遼太郎『坂の上の雲』 ・『のぼうの城』 ・『これからの「正義」の話しよう』 <p>last Q→あなたには明確な将来の夢がある? or今、成績を上げたい?</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・星新一『ボッコちゃん』 ・森谷明子『春や春』 ・平田オリザ『春が上がる』 ・上橋菜穂子『獣の奏者1』 ・『月の砂漠をさばさばと』 ・『赤毛のアン』 <p>LQ→今、非現実にとっぴりつかりたい?</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・宮沢賢治『注文の多い料理店』 ・上橋菜穂子『精霊の守り人』 ・新海誠『君の名は。』 ・夏目漱石『こころ』 ・川端康成『雪国』 <p>LQ→有名作品の冒頭部分いえる?</p> |
| ⑤人生に疲れた人、悩みのある人 | 入れてみたい質問、完成予想図 | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・吉本ばなな『TUGUMI』 ・辻村深月『ワナグ』 ・宮沢賢治『銀河鉄道の夜』 ・『手紙』 ・『秘密』 ・村上春樹『シンドニー!』 ・『ライオンのおやつ』 ・『舟を編む』 <p>LQ→自分の人生は今、下がり調子だ。Yes or No?</p> | <p>①②⑤→早く大人になりたい? ②③④タイムマシンがあったら行きたいのは過去?未来? ④一般教養を身に着けたい、有名どころが好き、ついついメニューでおすすめ・お任せを選んでしまう ①最近ニュースを見るようになった、不条理を感じる事が多い?規則や権威、古い考え方が嫌い? ⑤自分に絶対の自信がある?大切な友達はいる?ストレスに負けやすい? ①自分の興味を突き詰めたい? ②今までに熟中するようなものがあつた?自分は「あきらめを知らない人間」?</p> | | |

iv.成果、発見

選書過程で行われたそれぞれの感想、価値観の共有が最も大きな成果だといえる。例えばジャンルの一つ「知的好奇心、探求心が強い人」に分類される住野よる『きみの臓腑を食べたい』は映画化もされた小説である。映画の世界観の通り、多くの人はこの作品を「ラブストーリー」ととらえるのではないかと思う。しかし、選書した本人はこの小説のテーマは「不条理」であると主張し、ちょっとした議論になった。Yes or Noチャートのような目に見える成果物のみならず、自然と意見交換・共有が

できる機会を設けられたことでこの活動の意義と醍醐味を感じられた。

3. 反省点

活動の総合的な反省点として

- ・スケジュール調整
- ・勉強不足

などがあげられる。オンライン活動により顔合わせがままならず、スケジュールリングを行うのに苦労した。デバイス一つで参加できることはオンライン活動のメリットではあるが、一つ一つの工程やコミュニケーション、意思決定に時間がかかりすぎてしまうことが難点である。日ごろから連絡をとり、大学生側から歩み寄ることが必要だった。成果物作成に時間を割きすぎ、活動終了が春休みになってしまったことから動画や掲示物の効果を実感できないことが最大の反省点である。また、私個人は就職活動と並行して活動したこともあり、この1年で書店に行くことが増えた。特に都心の書店では「ほんのまくら」などの企画や斬新なPOPなど活動に取り入れられそうな取り組みが多く見受けられた。図書室内の活動は制約も多いが、このようなトレンドを取り入れた活動にも挑戦してみたかった。

4. 今後の展望

- ・アイデアの引継ぎ

成果物としては掲示物のみとなったが、アイデア提起の段階では多くの良質な提案が上がった。特に、課題図書のリサイクル活用はSDGsの観点からも取り組む意義が大きいはずだ。また活動報告会でも話題が上がった通り、図書室閉架には過去の活動の成果物が残されている。それらを利活用した取り組みも再考の余地がある。

- ・成果物の共有とPR

作成段階で活動期間が終了してしまったためPR活動ができていない。壁への張り出し、Google Classroomでの共有、電子化などが考えられる。スケジュールリングの際にはこうしたPR活動や効果指数の取得(入場者数や来場者数、貸出数)までを視野に入れて取り組んでほしい。

活動の様子



リエゾン文庫書目一覧 (2022年4月25日現在)

| 題目 | 著者等 | 出版社 | 配架先* |
|---------------------------------------|--|-----------------|-------|
| 国文学専攻 | | | |
| 宇佐美ゼミ 第十六号 報告集 文学部国文学専攻 2013 | 宇佐美毅 | 宇佐美ゼミナール 報告集 | 杉並 |
| 学研まんが 日本の古典 まんがで読む万葉集・古今和歌集・新古今和歌集 | 吉野朋美 監修 | 学研 | 杉並 |
| 後鳥羽院 コレクション日本歌人選 028 | 吉野朋美 | 笠間書院 | 杉並 |
| 西行全歌集 | 久保田淳・吉野朋美 校注 | 岩波文庫フェア | 杉並 |
| 武士の家計簿 —「加賀藩御算用者」の幕末維新 | 磯田道史 | 新潮新書 | 杉並 |
| 大学授業がやってきた! 知の冒険 | 桐光学園特別授業 | 水曜社 | 杉並、横浜 |
| テレビドラマを学問する | 宇佐美毅 | 中央大学出版部 | 杉並、横浜 |
| 中島敦『李陵・司馬遷』定本篇 | 中島敦 | 中島敦の会 | 杉並、横浜 |
| 中島敦『李陵・司馬遷』図版篇 | 中島敦 | 中島敦の会 | 杉並、横浜 |
| 中島敦とその時代 | 山下真史 | 双文社出版 | 杉並 |
| 2014年度 第17号 宇佐美ゼミ報告集 | 宇佐美毅 | | 杉並 |
| 白門國文 第26号 | 中央大學國文學會 | | 横浜 |
| 白門國文 第27号 | 中央大學國文學會 | | 横浜 |
| 白門國文 第28号 | 中央大學國文學會 | | 横浜 |
| 白門國文 第29号 | 中央大學國文學會 | | 横浜 |
| 白門國文 第30号 | 中央大學國文學會 | | 横浜 |
| 白門國文 第31号 | 中央大學國文學會 | | 横浜 |
| 村上春樹と一九八〇年代 | 宇佐美毅、千田洋幸 編 | おうふう | 杉並、横浜 |
| 村上春樹と一九九〇年代 | 宇佐美毅、千田洋幸 編 | おうふう | 杉並、横浜 |
| 慶安の触書は出されたか(日本史リブレット) | 山本英二 | 山川書店 | 杉並 |
| 中央大学白門國文 第56号 | 中央大學國文學會 | | 横浜 |
| 中央大学白門國文 第57号 | 中央大學國文學會 | | 横浜 |
| 書籍文化史一 | 山本英二・丹羽謙治・磯部敦・鈴木俊幸 | 鈴木俊幸 | 杉並、横浜 |
| 書籍文化史二 | 綿抜豊昭・中島穂高・鈴木圭一・浅岡邦雄・ 磯部敦・本多朱里・古相正美・鈴木俊幸 | 鈴木俊幸 | 杉並、横浜 |
| 書籍文化史三 | 柳沢昌紀・竹松幸香・合山林太郎・大竹寿 子・浅岡邦雄・鈴木俊幸 | 鈴木俊幸 | 杉並、横浜 |
| 書籍文化史四 | ピーター・コーニッキー・綿抜豊昭・勝又基・小林ふ み子・中澤伸弘・木越俊介・鈴木圭一・山本 英二・磯部敦・鈴木俊幸・瀧田裕子 | 鈴木俊幸 | 杉並、横浜 |
| 書籍文化史五 | 柏崎順子・金井圭太郎・浅岡邦雄・鈴木俊 幸 | 鈴木俊幸 | 杉並、横浜 |
| 書籍文化史六 | 堀川貴司・鈴木圭一・杉仁・蔵元朋依・磯部 敦・鈴木俊幸 | 鈴木俊幸 | 杉並、横浜 |

| 題目 | 著者等 | 出版社 | 配架先* |
|-----------|--|------------|-------|
| 書籍文化史七 | 高橋章則・中澤伸弘・鈴木俊幸 | 鈴木俊幸 | 杉並、横浜 |
| 書籍文化史八 | 岩坪充雄・杉仁・磯部敦・鈴木俊幸・高橋章則・高橋明彦・古相正美・五嶋靖弘・瀧田裕子・田村悦子・鄭恵珍・小村伊織・中道雅俊・矢澤由紀・宮田奈津紀・梁爽 | 鈴木俊幸 | 杉並、横浜 |
| 書籍文化史九 | 岩坪充雄・中澤伸弘・膽吹覚・牧野正久・高橋明彦・西谷泉・玉置豊美 | 鈴木俊幸 | 杉並、横浜 |
| 書籍文化史十 | 中澤伸弘・鈴木圭一・青柳涼子・素野辰也・檜垣優・鈴木俊幸 | 鈴木俊幸 | 杉並、横浜 |
| 書籍文化史十一 | 中澤伸弘・高木浩明・青柳涼子・鈴木翔・素野辰也・檜垣優・磯部敦・岩坪充雄・鈴木俊幸 | 鈴木俊幸 | 杉並、横浜 |
| 書籍文化史十二 | 岩坪充雄・堀川貴司・中澤伸弘・高橋明彦・稲岡勝・青柳涼子・梅澤亜矢・鈴木翔・素野辰也・鈴木俊幸・高木浩明・太田正弘 | 鈴木俊幸 | 杉並、横浜 |
| 書籍文化史十三 | 岩坪充雄・神林尚子・中澤伸弘・高木浩明・磯部敦・早川由美・2011年度中央大学 FLP 鈴木ゼミ・鈴木俊幸 | 鈴木俊幸 | 杉並、横浜 |
| 書籍文化史十四 | 岩坪充雄・中澤伸弘・高木浩明・磯部敦・FLP 鈴木ゼミ・鈴木俊幸 | 鈴木俊幸 | 杉並、横浜 |
| 書籍文化史十五 | 岩坪充雄・稲岡勝・高木浩明・2013年度中央大学 FLP 鈴木ゼミ・鈴木俊幸 | 鈴木俊幸 | 杉並、横浜 |
| 書籍文化史十六 | 堀部正円・岩坪充雄・太田正弘・中澤伸弘・鈴木俊幸・中央大学 FLP 鈴木ゼミ・高木浩明 | 鈴木俊幸 | 杉並、横浜 |
| 書籍文化史十七 | 太田正弘・高木浩明・鈴木圭一・中澤伸弘・稲岡勝・岩坪充雄・鈴木俊幸 | 鈴木俊幸 | 杉並、横浜 |
| 書籍文化史十八 | 太田正弘・岩坪充雄・高木浩明・堀部正円・中澤伸弘・中川和明・稲岡勝・鈴木俊幸・中央大学 FLP 鈴木ゼミ | 鈴木俊幸 | 杉並、横浜 |
| 書籍文化史十九 | 高木浩明・中澤伸弘・膽吹覚・岩坪充雄・稲岡勝・鈴木俊幸 | 鈴木俊幸 | 杉並、横浜 |
| 報告集第二十号 | 宇佐美ゼミ | 宇佐美ゼミナル報告集 | 杉並、横浜 |
| 報告集第二十一号 | 宇佐美ゼミ学生 | 宇佐美ゼミナル報告集 | 杉並、横浜 |
| 白門國文 第37号 | 降旗おおり/池田奈々帆/岡野屋実幸/中村薫/増永亜夕/野口優香/豊島朋香/茂木彩花/宇佐美毅/池田奈美 | 中央大學國文學會 | 杉並、横浜 |
| 中央大學國文 | 池田和臣/関礼子 | 中央大學國文學會 | 杉並、横浜 |

| 題目 | 著者等 | 出版社 | 配架先* |
|--|---|------------------|-------|
| 中島敦の絵はがき—南洋から愛息へ | 山下真史 | 中島敦の会 | 杉並、横浜 |
| USAMI報告集第二十一号 | 宇佐美毅 2018 年度学生 | 株式会社ポプルス | 杉並、横浜 |
| USAMI報告集第二十二号 | 宇佐美毅 2019 年度学生 | 株式会社ポプルス | 杉並、横浜 |
| 週刊宇佐美 23 宇佐美ゼミ報告集 | 宇佐美毅 2020 年度学生 | 株式会社ポプルス | 杉並、横浜 |
| 村上春樹と二十一世紀 | 宇佐美毅/千田洋幸 | 株式会社おうふう | 杉並、横浜 |
| 中央大學國文第六十五号 | 小野泰央/島田遼/綿拔豊昭/小野寺貴之/ 鈴木俊幸/富塚昌輝/山下真史/宇佐美毅/ | 中央大學國文學會 | 杉並、横浜 |
| 白門國文第 39 号 | 宇崎七海/三浦千枝/田本天那/鷹巣宝乃/ 田中里奈/内藤夕衣/松山みずほ/宇佐美毅/川島優佳 | 中央大學國文學會 | 杉並、横浜 |
| 英語文学文化専攻 | | | |
| 愛の技法 クエア・リーディングとは何か | 中央大学人文科学研究所編 | 中央大学出版部 | 杉並、横浜 |
| アメリカ太平洋研究 Vol.16 March 2016 | 東京大学大学院総合文化研究科 アメリカ太平洋地域研究センター | | 杉並、横浜 |
| アン・ブロンテ 二十一世紀の再評価 | 大田美和 | 中央大学出版部 | 杉並、横浜 |
| 英国小説研究 第 22 冊 | 「英国小説研究」同人 | 英潮社 | 杉並、横浜 |
| 英米文学研究 第 31 号 | 兼武道子他 | 中央大学文学部 英米文学会 | 杉並 |
| 大田美和の本 | 大田美和 | 北冬舎 | 杉並、横浜 |
| きれい 大田美和歌集 | 大田美和 | 河出書房新社 | 杉並、横浜 |
| 葡萄の香り、噴水の匂い | 大田美和 | 北冬舎 | 杉並、横浜 |
| ブロンテ姉妹の世界 | 内田能嗣 | ミネルヴァ書房 | 杉並、横浜 |
| 北冬 No.013 | 北冬舎 | 北冬舎 | 杉並、横浜 |
| ミッキーはなぜ口笛を吹くのか | 細馬宏通 | 新潮選書 | 杉並 |
| 夜のミッキー・マウス | 谷川俊太郎 | 新潮文庫 | 杉並 |
| レクイエム | 田口智子・絵、大田美和・短歌 | エディション q | 杉並、横浜 |
| 記者たちは海に向かった 津波と放射能と福島民友新聞 | 門田隆将 | 角川文庫 | 杉並、横浜 |
| 人生の意味論 | 河西良治 | 開拓社 | 杉並、横浜 |
| 2019AJALT | 埴仁礼子(編集長) | 国際日本語普及協会 | 杉並、横浜 |
| めぐりあうテキストたち ブロンテ文学部の遺産と影響 | 惣谷美智子/岩上はる子編 | 春風社 | 杉並、横浜 |
| 読むことのクエア 続 愛の技法 | 中央大学自分科学研究所編 | 中央大学出版部 | 杉並、横浜 |
| ドイツ語文学文化専攻 | | | |
| クレーの絵本 | 谷川俊太郎 | 講談社 | 杉並 |
| ジビレ・レヴィチャロフの小説『ブルーメンベルク』文化史 と不死性(ドイツ文化 第六十七号抜刷) | 縄田雄二 | 中央大学ドイツ学会 | 杉並 |
| ドイツ語資料から見た留学期の斎藤茂吉 (ドイツ文化 第五十五号抜刷) | 縄田雄二 | 中央大学ドイツ学会 | 杉並 |

| 題目 | 著者等 | 出版社 | 配架先* |
|---------------------------------|-------------------------|---------------|-------|
| ドイツの歴史教育 | 川喜田敦子 | 白水社 | 杉並 |
| ドゥルス・グリューンバイン詩集 墓碑銘・日本紀行 | 縄田雄二 編訳 | 中央大学出版部 | 杉並 |
| マルセル・バイアー講演 鷲 (紀要抜刷 文学科第九十号) | 縄田雄二 | 中央大学文学部 | 杉並 |
| 現代詩手帖 | 藤井一乃 | 思潮社 | 杉並、横浜 |
| フランス語文学文化専攻 | | | |
| 九十三年(上下) | ヴィクトル・ユゴー | 潮文学ライブラリー | 杉並 |
| ゴヤ 啓蒙の光の影で | T.トドロフ、小野潮 訳 | 法政大学出版局 | 杉並 |
| ジャン＝ジャック・ルソー 自己充足の哲学 | 永見文雄 | 勁草書房 | 横浜 |
| 十九世紀フランス文学を学ぶ人のために | 小倉孝誠 | 世界思想社 | 杉並 |
| 西洋美術への招待 | 田中英道 監修 | 東北大学出版会 | 杉並 |
| 対訳 フランス語で読む「赤と黒」 | 小野潮 | 白水社 | 杉並 |
| 中大仏文研究 第45号 | 中大仏文研究会 | | 横浜 |
| 中大仏文研究 第46号 | 中大仏文研究会 | | 横浜 |
| フクシマ・ノート 忘れない、災禍の物語 | ミカエル・フェリエ、義江真木子 | 新評論 | 杉並、横浜 |
| フランス革命と文学 | ベアトリス・ディディエ | 白水社 | 杉並 |
| フランス 19世紀絵画 | 阿部成樹 他 | ホワイティンターナショナル | 杉並、横浜 |
| 屈服しない人々 | ツヴェタン・トドロフ小野潮訳 | 新評論 | 杉並、横浜 |
| ゴヤ 啓蒙の光の影で | ツヴェタン・トドロフ小野潮訳 | 法政大学出版局 | 杉並、横浜 |
| ジェルメース・ティヨン | ティヨン著小野潮訳 | 法政大学出版局 | 杉並、横浜 |
| 野蛮への恐怖、文明への怨念 | ツヴェタン・トドロフ 大谷尚文・小野潮訳 | 新評論 | 杉並、横浜 |
| デイドロ限界の思考 | 田口卓臣 | 風間書房 | 杉並、横浜 |
| 怪物的思考 近代思想の転覆者デイドロ | 田口卓臣 | 講談社選書メチエ | 杉並、横浜 |
| ペルシア人の手紙 | シャルル＝ルイ・ド・モンテスキュー/田口卓臣訳 | 講談社学術文庫 | 杉並、横浜 |
| 脱原発の哲学 | 佐藤嘉幸/田口卓臣 | 人文書院 | 杉並、横浜 |
| 善のはかなさ | ツヴェタン・トドロフ/小野潮訳 | 新評論 | 杉並、横浜 |
| 中国言語文化専攻 | | | |
| 現代中国のポピュラーカルチャー | 飯塚容 他 | 勉誠出版 | 杉並 |
| 現代中国文化の光芒 | 中央大学人文科学研究所編 | 中央大学出版部 | 杉並、横浜 |
| 死者たちの七日間 | 余華、飯塚容 訳 | 河出書房新社 | 杉並 |
| 中国故事 | 飯塚朗 | 角川ソフィア文庫 | 杉並、横浜 |
| 中国人エリートは日本人をこう見る | 中島恵 | 日経プレミアシリーズ | 杉並 |
| 中国の「新劇」と日本 「文明戯」の研究 | 飯塚容 | 中央大学出版部 | 杉並 |
| 富萍 上海に生きる | 王安憶、飯塚容・宮入いずみ 訳 | 勉誠出版 | 杉並 |
| 霊山 | 高行健、飯塚容 訳 | 集英社 | 杉並 |
| 中国動漫新人類 日本のアニメと漫画が中国を動かす | 遠藤誉 | 日経 BP 社 | 杉並 |
| 会うための別れ 過士行 短編小説集 | 菱沼彬晃 訳 | 晩成書房 | 杉並、横浜 |

| 題目 | 著者等 | 出版社 | 配架先* |
|--------------------------|---|----------|-------|
| 父を想う ある中国作家の自省と回想 | 閻連科、飯塚容 訳 | 河出書房新社 | 杉並、横浜 |
| いま、世界で読まれている 105 冊 2013 | TEN-BOOKS 編 | テン・ブックス | 杉並、横浜 |
| 文化大革命を問い直す | 朝浩之・金野純・陳継東・前田年昭 印紅 標・鈴木一誌・森瑞枝・松本潤一郎・及川淳 子 | | 杉並、横浜 |
| 中国リベラルズムの政治空間 | 李偉東・鈴木賢・及川淳子・秦暉・徐友漁・ 梶谷懐・王侃・吉岡桂子・栄剣・牧陽一・賀 衛方・阿古智子・水谷尚子・王建勛・張博樹 | | 杉並、横浜 |
| 最後の審判を生き延びて | 劉曉波 | | 杉並、横浜 |
| 憎しみに未来はない 中日関係新思考 | 馬立誠 | | 杉並、横浜 |
| 中国語で伝えたい自分のこと日本のこと | 及川淳子 | | 杉並、横浜 |
| わたしの中国語 32 のフレーズでこんなに伝わる | 及川淳子 | | 杉並、横浜 |
| おもてなしの中国語 2018 年度 4-9 | 及川淳子 | | 杉並、横浜 |
| おもてなしの中国語 2018 年度 10-3 | 及川淳子 | | 杉並、横浜 |
| 中国語をはじめよう | 及川淳子 | | 杉並、横浜 |
| 現代中国を知るための44章 | 藤野彰・曾根康雄 | | 杉並、横浜 |
| 上海 | 榎本泰子 | | 杉並、横浜 |
| アジアと生きるアジアで生きる | 鄭俊坤・金大偉・柳玟熙・飯塚容・大田美 和・藤岡朝子・妹尾達彦・村上薫・佐藤洋 治・長谷川彩未・ローナ・コフラー・鎌田東二・趙 維平・麻生晴一郎 | | 杉並、横浜 |
| 作家たちの愚かしくも愛すべき中国 | 高行健・余華・閻連科 | | 杉並、横浜 |
| 11 通の手紙 | 及川淳子 | 小学館 | 杉並、横浜 |
| 銃弾とアヘン | 廖亦武・土屋昌明/鳥本まさき/及川淳子訳 | 白水社 | 杉並、横浜 |
| 起きてから寝るまで中国語表現 1000 | 顧蘭亭/及川淳子 | アルク | 杉並、横浜 |
| 現代中国を知るための52章 | 藤野彰 | 明石書店 | 杉並、横浜 |
| 「〇八憲章」で学ぶ教養中国語 | 劉燕子/及川淳子 | 集告舎 | 杉並、横浜 |
| 六四と一九八九 | 石井知章/及川淳子/アント・リユー・ネイサン/胡平 /王丹/張博樹/李偉東/矢吹晋/大熊雄一 郎 | 白水社 | 杉並、横浜 |
| 11 封信 | 及川淳子/劉燕子・及川淳子訳 | 新鋭文創 | 杉並、横浜 |
| よくわかる現代中国政治 | 川島真/小嶋華津子 | ミネルヴァ書房 | 杉並、横浜 |
| 普遍的価値を求める | 許紀霖/中島隆博・王前監訳 | 法政大学出版局 | 杉並、横浜 |
| 日本史学専攻 | | | |
| 外務官僚たちの太平洋戦争 | 佐藤元英 | NHK ブックス | 杉並、横浜 |
| 魏志倭人伝の考古学 | 佐原真 | 岩波書店 | 杉並 |
| 3・11 複合災害と日本の課題 | 佐藤元英、滝田堅持 | 中央大学出版部 | 横浜 |

| 題目 | 著者等 | 出版社 | 配架先* |
|----------------------------|---------------|---------|-------|
| 市民の考古学 4 考古学でつづる日本史 | 藤本強 | 同成社 | 杉並 |
| 昭和初期対中国政策の研究 田中内閣の対滿蒙政策 | 佐藤元英 | 原書房 | 杉並 |
| 縄文社会研究の新視点 -炭素 14 年代測定の利用- | 小林謙一 | 六一書房 | 横浜 |
| 中央史学 創刊号 | 中央史学会 | | 横浜 |
| 中央史学 第 2 号 | 中央史学会 | | 横浜 |
| 中央史学 第 3 号 | 中央史学会 | | 横浜 |
| 中央史学 第 4 号 | 中央史学会 | | 横浜 |
| 中央史学 第 5 号 | 中央史学会 | | 横浜 |
| 中央史学 第 6 号 | 中央史学会 | | 横浜 |
| 中央史学 第 7 号 | 中央史学会 | | 横浜 |
| 中央史学 第 8 号 | 中央史学会 | | 横浜 |
| 中央史学 第 9 号 | 中央史学会 | | 横浜 |
| 中央史学 第 10 号 | 中央史学会 | | 横浜 |
| 中央史学 第 11 号 | 中央史学会 | | 横浜 |
| 中央史学 第 12 号 | 中央史学会 | | 横浜 |
| 中央史学 第 14 号 | 中央史学会 | | 横浜 |
| 中央史学 第 15 号 | 中央史学会 | | 横浜 |
| 中央史学 第 17 号 | 中央史学会 | | 横浜 |
| 中央史学 第 19 号 | 中央史学会 | | 横浜 |
| 中央史学 第 20 号 | 中央史学会 | | 横浜 |
| 中央史学 第 21 号 | 中央史学会 | | 横浜 |
| 中央史学 第 22 号 | 中央史学会 | | 横浜 |
| 中央史学 第 23 号 | 中央史学会 | | 横浜 |
| 中央史学 第 24 号 | 中央史学会 | | 横浜 |
| 中央史学 第 25 号 | 中央史学会 | | 横浜 |
| 中央史学 第 27 号 | 中央史学会 | | 横浜 |
| 中央史学 第 29 号 | 中央史学会 | | 横浜 |
| 中央史学 第 31 号 | 中央史学会 | | 横浜 |
| 中央史学 第 32 号 | 中央史学会 | | 横浜 |
| 中央史学 第 34 号 | 中央史学会 | | 横浜 |
| 中央史学 第 35 号 | 中央史学会 | | 横浜 |
| 中央史学 第 36 号 | 中央史学会 | | 横浜 |
| 中央史学 第 37 号 | 中央史学会 | | 横浜 |
| 日本の中世 12 村の戦争と平和 | 坂田聡、榎原雅治、稲葉継陽 | 中央公論新社 | 杉並 |
| 発掘で探る縄文の暮らし 中央大学の考古学 | 小林謙一 | 中央大学出版部 | 杉並、横浜 |
| 苗字と名前の歴史 | 坂田聡 | 吉川弘文館 | 杉並 |
| 民衆と天皇 | 坂田聡、吉岡拓 | 高志書院 | 杉並 |
| 公害スタディーズ | 安藤聡彦/林美帆/丹野春香 | ころから | 杉並、横浜 |

| 題目 | 著者等 | 出版社 | |
|------------------------------------|------------------------------|-----------|-------|
| 東洋史学専攻 | | | |
| アジア史における制度と社会 | 中央大学東洋史学研究室 編 | 白東史学会 | 杉並 |
| 池田雄一教授古稀記念アジア史論叢 | 中央大学東洋史学研究室 編 | 白東史学会 | 杉並 |
| イスラム世界論 トリックスターとしての神 | 加藤博 | 東京大学出版会 | 杉並 |
| 環境から解く古代中国 | 原宗子 | 大修館書店 | 杉並 |
| 菊池英夫教授山崎利男教授古稀記念アジア史論叢 | 中央大学東洋史学研究室 編 | 刀水書房 | 杉並 |
| サラディン イエルサレム奪回 | 松田俊道 | 山川出版社 | 杉並、横浜 |
| 中央大学 アジア史研究 第 37 号 | 白東史学会 中央大学文学部東洋史研究室 | | 横浜 |
| 中央大学 アジア史研究 第 38 号 | 白東史学会 中央大学文学部東洋史研究室 | | 横浜 |
| 中央大学東洋史学専攻創設五十周年記念 アジア史論叢 | 白東史学会 | 白東史学会 | 杉並 |
| 明代中国の疑獄事件 | 川越泰博 | 風響社 | 杉並 |
| 遊牧民から見た世界史 増補版 | 杉山正明 | 日本経済新聞出版社 | 杉並 |
| 四字熟語歴史漫筆 | 川越泰博 | 大修館書店 | 杉並 |
| 川越泰博教授 古稀記念アジア史論叢 | 中央大学東洋史学研究室 編 | 白東史学会 | 杉並、横浜 |
| アンコール遺跡と社会文化発展 アンコール・ワットの解明4 | 石澤良昭 監修・坪井善明 編 | 連合出版 | 杉並、横浜 |
| カンボジアの民話世界 | 高橋宏明 訳／編 | めこん | 杉並、横浜 |
| グローバル・ヒストリー | 妹尾達彦 | 中央大学出版部 | 杉並、横浜 |
| 中国史で読み解く故事成語 | 阿部幸信 | 山川出版社 | 杉並、横浜 |
| 西洋史学専攻 | | | |
| 英雄詩とは何か | 中央大学人文科学研究所 編 | 中央大学出版部 | 杉並 |
| 近世ヨーロッパ軍事史 | A・バルベロー | 論創社 | 杉並 |
| 広義の軍事史と近世ドイツ —集権的アリストクラシー・近代転換期 | 鈴木直志 | 彩流社 | 杉並 |
| 哲学専攻 | | | |
| 愛の哲学、孤独の哲学 | アンドレ・コント＝スポンヴィル、 中村昇、他 訳 | 紀伊國屋書店 | 杉並 |
| ウイゲンシュタイン ネクタイをしない哲学者 | 中村昇 | 白水社 | 杉並 |
| ウイゲンシュタイン「哲学探究」入門 | 中村昇 | 教育評論社 | 杉並、横浜 |
| 小林秀雄とウイゲンシュタイン | 中村昇 | 春風社 | 杉並、横浜 |
| ささやかながら、徳について | アンドレ・コント＝スポンヴィル、 中村昇、他 訳 | 紀伊國屋書店 | 杉並 |
| シーシュポスの神話 | カミュ | 新潮文庫 | 杉並 |
| 色彩について | ルートヴィヒ・ウイゲンシュタイン、 中村昇、他 訳 | 新書館 | 杉並 |
| ベルクソン=時間と空間の哲学 | 中村昇 | 講談社 | 杉並、横浜 |
| ホワイトヘッドの哲学 | 中村昇 | 講談社 | 杉並、横浜 |
| 母の発達 | 笙野頼子 | 河出文庫 | 杉並 |
| どこでもないところからの眺め | トマス・ネーゲル、中村昇、他 訳 | 春秋社 | 横浜 |

| 題目 | 著者等 | | 出版社 |
|---|---|--------------------|-------|
| 社会学専攻 | | | |
| 【改訂版】戦後日本青少年問題考 | 矢島正見 | 一般財団法人 青少年問題研究会 | 杉並、横浜 |
| 家族革命 | 清水浩昭、森謙二、岩上真珠、山田昌弘 | 弘文堂 | 杉並、横浜 |
| 「家族」難民 生涯未婚率 25%社会の衝撃 | 山田昌弘 | 朝日新聞出版 | 杉並、横浜 |
| 家族の衰退が招く未来 「将来の安心」と「経済成長」は取り戻せるか | 山田昌弘、塚崎公義 | 東洋経済新報社 | 杉並、横浜 |
| 家族のリストラクチャリング 21世紀の夫婦・親子はどう生き残るか | 山田昌弘 | 新曜社 | 杉並、横浜 |
| 高校生のための人気学問ガイド | 矢島正見 | 旺文社 | 杉並 |
| 「婚活」時代 | 山田昌弘、白河桃子 | ディスカバー携書 | 杉並、横浜 |
| 少子社会日本 もうひとつの格差のゆくえ | 山田昌弘 | 岩波書店 | 杉並、横浜 |
| 女性活躍後進国ニッポン | 山田昌弘 | 岩波書店 | 杉並、横浜 |
| 震災婚 震災で生き方を変えた女たち ライフスタイル・消費・働き方 | 白河桃子 | ディスカバー携書 | 杉並、横浜 |
| 新平等社会 「希望格差」を超えて | 山田昌弘 | 文芸春秋 | 杉並、横浜 |
| 旅をして、出会い、ともに考える— —大学ではじめてフィールドワークをするひとのために | 新原道信 | 中央大学出版部 | 杉並 |
| 中央社会学 第22号 2013 | 中央大学文学部社会学会 | | 横浜 |
| 中央社会学 第23号 2014 | 中央大学文学部社会学会 | | 横浜 |
| なぜ若者は保守化するのか 反転する現実と願望 | 山田昌弘 | 東洋経済新報社 | 杉並、横浜 |
| パラサイト社会のゆくえ データで読み解く日本の家族 | 山田昌弘 | ちくま新書 | 杉並、横浜 |
| パラサイト・シングルの時代 | 山田昌弘 | ちくま新書 | 杉並、横浜 |
| ワーキングプア時代 底抜けセーフティネットを再構築せよ | 山田昌弘 | 文芸春秋 | 杉並、横浜 |
| 結婚クライシス (中流転落不安) | 山田昌弘 | 東京書籍 | 杉並、横浜 |
| モテる構造 男と女の社会学 | 山田昌弘 | ちくま新書 | 杉並、横浜 |
| 社会情報学専攻 | | | |
| インターネットが壊した「こころ」と「言葉」 | 森田幸孝 | 幻冬舎 ルネッサンス新書 | 杉並 |
| うわさとは何か ネットで変容する「最も古いメディア」 | 松田美佐 | 中公新書 | 杉並、横浜 |
| うわさの謎 流言、デマ、ゴシップ、都市伝説はなぜ広がるのか | 松田美佐、川上善郎、佐藤達哉 | 日本実業出版社 | 杉並、横浜 |
| SF映画で学ぶインタフェースデザイン アイデアと想像力を鍛え上げるための141のレッスン | NATHAN SHEDROFF, CHRISTOPHER NOESSEL | 丸善出版 | 横浜 |
| ケータイ学入門 メディア・コミュニケーションから読み解く 現代社会 | 松田美佐、岡田朋之 | 有斐閣 | 杉並、横浜 |
| ケータイ社会論 | 松田美佐、岡田朋之 | 有斐閣 | 杉並 |
| ケータイのある風景 テクノロジーの日常化を考える | 松田美佐、岡部大介、伊藤瑞子 | 北大路書房 | 杉並、横浜 |
| C言語によるスーパーLinux プログラミング | 飯尾淳 | softbank creative | 横浜 |
| ラーニング・コモンズ | 加藤信哉・小山憲司 | 勁草書房 | 杉並、横浜 |
| 小山ゼミ論文集第1号 | 小山ゼミ学生 | 小山憲司セミナー | 杉並、横浜 |
| 小山ゼミ論文集第2号 | 小山ゼミ学生 | 小山憲司セミナー | 杉並、横浜 |
| 社会情報学ハンドブック | 吉見俊哉、花田達朗 | 東京大学出版会 | 杉並 |

| 題目 | 著者等 | 出版社 | 題目 |
|---------------------------|--|------------------------------|-------|
| 情報貧国ニッポン～課題と提言 | 山崎久道 | 紀伊国屋書店 | 横浜 |
| 図書館・アーカイブズとは何か | 粕谷一希、菊池光興、長尾真 編 | 藤原書店 | 杉並 |
| 趣味とジェンダー | 神野由紀／辻泉／飯田豊 | 青弓社 | 杉並、横浜 |
| 小山ゼミ論文集 第3号 | 小山ゼミ学生 | 小山憲司ゼミナル | 杉並、横浜 |
| 小山ゼミ論文集 第5号 | 小山憲司ゼミナル | 中央大学文学部人文 社会学科社会情報学 専攻 | 杉並、横浜 |
| 小山ゼミ論文集第6号 | 小山憲司ゼミナル学生 | 小山憲司ゼミナル | 杉並、横浜 |
| 教育学専攻 | | | |
| イチから始める 外国人の子供教育 | 臼井智美 編 | 教育開発研究所 | 杉並 |
| 教育学をつかむ | 木村元、小玉重雄、船橋一男 | 有斐閣 | 杉並 |
| まんが クラスメイトは外国人—多文化共生の物語 | 「外国につながる子供たちの物語」 編集委員会編 | 明石書店 | 杉並 |
| 能力 2040 AI時代に人間する | 池田賢市/市野川容考/伊藤書佳/菊池栄 治/工藤律子/松島健 | 太田出版 | 杉並、横浜 |
| 学びの本質を解きほぐす | 池田賢市 | 新泉社 | 杉並、横浜 |
| 心理学専攻 | | | |
| 面白いほどよくわかる！臨床心理学 | 下山晴彦 | 西東社 | 杉並 |
| 小学生の生活とこころの発達 | 心理科学研究会 | 福村出版 | 横浜 |
| 心理学論文の書き方 おいしい論文のレシピ | 都筑学 | 有斐閣アルマ | 杉並、横浜 |
| 中高生のためのメンタル系サバイバルガイド | 松本俊彦 編著 | 日本評論社 | 杉並 |
| やさしい青年心理学 | 白井利明、都筑学、森陽子 | 有斐閣アルマ | 杉並、横浜 |
| やさしい発達心理学 乳児から青年までの発達プロセス | 都筑学 | ナカニシヤ出版 | 杉並、横浜 |
| マインドフル・セルフ・コンパッション・ワークブック | クリスティン・ネフ/クリストファー・ガーマー/ 監訳富田拓郎/大宮宗一郎・菊池創・高橋り や・井口萌娜訳 | 星和書店 | 杉並、横浜 |
| その他 | | | |
| アジア史における法と国家 | 中央大学人文科学研究所 編 | 中央大学出版部 | 杉並 |
| アルス・イノヴァティーヴァ | 中央大学人文科学研究所 編 | 中央大学出版部 | 杉並 |
| イデオロギーとアメリカン・テキスト | 中央大学人文科学研究所 編 | 中央大学出版部 | 杉並 |
| 埋もれた風景たちの発見 ヴィクトリア朝の文芸と文化 | 中央大学人文科学研究所 編 | 中央大学出版部 | 杉並 |
| 芸術のイノベーション | 中央大学人文科学研究所 編 | 中央大学出版部 | 杉並 |
| ツァロートの道 ユダヤ歴史・文化研究 | 中央大学人文科学研究所 編 | 中央大学出版部 | 杉並 |
| 民国前期中国と東アジアの変動 | 中央大学人文科学研究所 編 | 中央大学出版部 | 杉並 |
| 文法記述の諸相 | 野田時寛・藤原浩史・林明子・西沼行博・谷 部弘子・工藤早恵・遠藤雅裕・大羽良・若林 茂則・市川泰男・新井洋一 | 中央大学出版部 | 杉並、横浜 |

| 題目 | 著者等 | 出版社 | 題目 |
|----------------------------|--|----------|-------|
| 文法記述の諸相Ⅱ | 野田時寛・藤原浩史・大羽良・林明子・西沼行博・工藤早恵・遠藤雅裕・堀田隆一・千葉修司・新井洋一 | 中央大学出版部 | 杉並、横浜 |
| 恋愛 家族 そして未来 | 中村昇/坂田聡/横湯園子/宇佐美毅/杉崎泰一郎/中尾秀博/野口薫/斉木眞一/榎本泰子/松田俊道/松田美佐/矢島正見/古賀正義 | 中央大学 | 杉並、横浜 |
| ミュージアムを知ろう | 横山佐紀 | ペリカン社 | 杉並、横浜 |
| 学芸員になるには | 横山佐紀 | ペリカン社 | 杉並、横浜 |
| 人権入門[第4版] —憲法/人権/マイノリティ | 横藤田誠/中坂恵美子 | (株)法律文化社 | 杉並、横浜 |
| 人の移動とエスニシティ | 中坂恵美子/池田賢市 | 明石書店 | 杉並、横浜 |
| 学びの扉をひらく—時間・記憶・記録—上 | 中央大学文学部実践的教養演習 | 中央大学出版部 | 杉並、横浜 |
| 学びの扉をひらく—時間・記憶・記録—下 | 中央大学文学部実践的教養演習 | 中央大学出版部 | 杉並、横浜 |

配架先* 杉並＝中央大学杉並高等学校 横浜＝中央大学附属横浜高等学校





2021 年度

スチューデント・ライブラリアン活動報告書

2021 年 3 月 31 日 発行

©中央大学文学部